

I 令和5年度の運営総括及び来期の課題

平成19年9月の開館から丸16年を迎えた。今日まで、述べ67万人を超える来館者が、白根児童センターを利用してくれた。約4年に及ぶコロナ禍も明け、徐々に施設利用や行事、ボランティア行事も再開し、以前の活動に戻りつつあった令和5年度であった。

平日の午前中や土日を中心に乳幼児親子が多く訪れ、伸び伸び遊んでいる様子が見られた。『クリスマス会』や『豆まき会』などの季節行事になると特に利用者からの反応も良く、父親や祖父母と家族一同で参加してくれる親子も多い。昨年度、情報発信する力を高めていきたいと目標に掲げ、Instagramでの広報を開始。見る人の目に留まるように工夫を凝らして情報発信をし始めて約1年、南区以外であったり、新潟市外からの来館も着実に増えた。中には「Instagramを見ていてずっと来てみたかったんです」との嬉しい言葉や掲載した行事の申し込みが増える等、利用者からの反応は良いと思われる。

また、午後からは小学生が来館し、アリーナや集会室、工作室、遊戯室、図書室で元気に遊ぶ様子が見られた。アリーナでは身体を動かして遊んだり、親子でバスケットボールやバドミントンの練習に励んでいる様子も見られた。中学生や高校生に遊んでもらっている様子もあり、多世代交流も生まれていた。

夕方からは中高生の利用も多く、アリーナで身体を動かして遊んだり、テスト前になると工作室や図書室で勉強する姿もあった。行事の際は率先してボランティアや小学生たちの手本となる姿を見せてくれる頼もしい一面も見られる。

白根児童センターで過ごす子どもたちを見守る日々の中で、子どもたちの声に耳を傾け、時には叱咤激励をしながら、ともに歩みを進めてきた。小さいころから通っていた子どもたちが新中学1年生、高校1年生になり、社会人になってからも時折立ち寄っては近況を話していく姿や時間がある時は行事ボランティアにも来てくれる。長い年月の中で、たくさん子どもたちと出会い、子どもたちの成長に寄り添ってきたごく当たり前の日常が、白根児童センターで過ごす子どもたちにとって、かけがえのない時間として積み上げられていることを実感。これからも利用者が安心・安全に利用でき、子どもたち、保護者の気持ちにより一層寄り添い、居場所となれるような運営、地域との連携事業も可能な限りでの実施ができるよう次年度も努力していきたいと思う。

1. 乳幼児事業

(1) 総括

乳幼児親子の中には母親のみならず、父親や祖父母の姿も多く見られた。頻繁に足を運んでくれる親子も多く、来館するたびに子どもの成長を共に実感することが出来た。コロナ禍前までの参加人数とはいかないものの、季節行事も再開。南区の『子育てオーエンジャー☆みなみ』や『子育て安心ささえ隊3739』の方々とも連携を取りながら、子育てをする母親支援にも努めた。また、BP講座の開催を通して、母親同士が情報共有できる仲間づくりにも焦点を当て

てきた。

① 定例行事

『おはなしの時間』は月に2回実施し、絵本や大型絵本、紙芝居などの読み聞かせを楽しんでもらい、2回のうち、1回は読み聞かせ後にカプラブロックを楽しんでもらう時間も設けた。

『ちびっこ工作週間』では月に1回1週間、昨年度までは自宅で作るキットの配布のみであったが、今年度より児童センターでの製作も再開。

② 季節行事

今年度からは『七夕おたのしみ会』や『ハロウィンおたのしみ会』、『クリスマス会』等の季節行事も昨年までの分散型ではなく、以前のような形式で15組ほどの定員を設け1日開催に戻した。約1か月前から申し込み予約を受けるが受付開始直後からたくさん申し込みをいただくことも増えた。参加者みんなで遊べるコーナーやダンス、中学生の職業体験と合わせて中学生に1ブース担当してもらったり、ボランティアの小学生に小鬼に扮してもらっての豆まきなど世代交流をしてもらうこともできた。

③ 移動児童館（カプラ遊び）

児童館事業をより広く知ってもらうために移動児童館を行った。毎年恒例になりつつある諏訪木保育園や今年度初めて臼井保育園、月潟保育園を訪問。園の親子行事での依頼もあり、需要は高まってきたように感じる。『カプラブロック遊び』では、参加月齢に応じて平面での製作や立体での製作を多くしたりと試行錯誤しながらカプラの楽しさを伝えた。

カプラブロック遊び以外では『読み聞かせ』や『軽い運動遊び』を提供した。

④ 地域の方々との共催事業

子育てオーエンジャー☆みなみとの共催行事では7月、3月に『ほっぺちゃんひろば』を2回開催した。1回目の「ピアノ演奏とハンドトリートメント」では新型ウィルス流行前に大人気だったハンドトリートメントが再開され、オーエンジャーメンバーによる素敵なピアノ演奏を聴きながらのハンドトリートメントとリラックスできる回となった。

2回目は「鷺尾助産師さんの講話」で人気回で『入園入学の際に気をつける』をテーマの鷺尾さんの実体験を基にした講話に加え、ママたちの困りごとや質問にも答えてもらえる時間もあり、大盛況だった。

子育て安心ささえ隊 3739 と白根地区社会福祉協議会との共催行事では5月、11月に「プランターの花植え」、6月に「親子リトミック」、10月に「ベビーダンス」、1月、3月に「けん玉教室」、2月に「親子工作 万華鏡づくり」、3月に「人形劇」と多種多様な行事を実施していただき、利用者からも大変好評であった。

毎年実施していた『ベビーマッサージ』は、今年から西白根地域でベビーマッサージ教室を開かれている講師とのご縁が繋がり、新たな講師をお招きしてオイルを使用してのベビーマッサージを行事として9月、3月と年2回行うことができた。

白根健康福祉センターと白根ひまわりクラブ 1.2、白根北児童館、白根南児童館、味方児童館との連携行事では『しろねあきまつり』を実施。白根健康福祉センターブースではキッズダンスやオカリナ演奏などのステージ発表、授産施設による物品販売など、白根児童センターでは遊びブースとして「射的」や「マリオゲーム」、「景品つり」、「ハッピーアイスクリーム」、「0円バザー」のコーナーを設け、幼児親子約 260 名含む 450 名が来館し、お祭りを楽しんでもらった。

⑤ その他

子育て支援事業として2ヵ月～5ヵ月の子ども(第1子)を持つ母親対象の『BP1 講座』、そして2ヵ月～5ヵ月の子ども(第2子以上)を持つ母親対象の『BP2 講座』を実施。保育園やこども園の園外保育での利用も再開され、多くの園児さんに遊びに来てもらう機会が増えた。園外保育で利用の後には保護者と一緒に一般利用してくれる子も多い。運営協議会の委員から話があった母親向けの『乳幼児救命救急講習』も実施し、消防署の職員に来てもらい映像で学習したり、人形を使って心臓マッサージの実践練習も行った。区の保育コンシェルジュからも来館していただき、『出張保育コンシェルジュ』として入園申請や入園に関する知識をお話いただいたり個別相談にもものっていただく貴重な機会となった。

(2) 来期の課題

母親支援と親子のふれあいを重点に、地域とともに講座や広場、行事の充実に努めてきた。休日を中心に、父親と幼児と一緒に来館する姿を多く目にする。行事や季節のイベントに、父親や祖父母も一緒に参加する様子も見られた。引き続き、利用者のニーズに合った行事の充実に努めると共に保護者の不安や悩みに寄り添えるような関係性を築き、親子の居場所として地域に根付いた施設になれるよう努めたい。

2. 小学生事業

(1) 総括

平日は、習い事や学校の帰りが遅くなり遊びに来館する子が少なくなっているが、核家族化で共働きが多く、子どもたちが日中を安心安全に過ごせる場として、児童センターが『第二の我が家』のように過ごす子どもたちの姿が少なからず見られる。今年度5月に今までグループごとで遊ぶ、隣接するひまわりクラブの児童たちとも時間をずらして遊ぶ、ソーシャルディスタンスを保って遊ぶ等厳しかった施設利用が緩和されたこと

で初めのうちは戸惑いも見られたが、徐々にグループや学年、学校など分け隔てなく遊ぶ姿が戻ってきたように思う。マスク着用も個人の自由となったことで、隠れていた表情も見ることができるようになり、喜怒哀楽を存分にぶつけてくれる姿は運営側としても“これぞ児童センター”のような姿が戻ってきて嬉しく思う。

ボランティア事業も職員と一緒に季節の壁面を貼るお手伝いや、ハロウィン・クリスマス会の準備のお手伝いなど幅広く担ってくれた。幼児向け行事「ちびっこ豆まき会」では小鬼に扮して豆をまかれる役から最後は一緒に「鬼のパンツ」を踊るところまで協力してくれ大活躍だった。子どもたちも役に立てる事が嬉しい様子で嬉々として臨んでくれていた。

① 定例行事

アリーナが開放されている期間は毎月、『アリーナで遊ぼう』を開催した。ドッジボール大会や野球大会、一風変わった玉入れ、鬼ごっこなど様々な競技に取り組んだ。中学生も参加してくれることもあり、良い多世代交流となっていた。

『折り紙の日』や『作って遊ぼう』は昨年度までは持ち帰り用のキットを配布する形をとってきたが『折り紙の日』は4年ぶりに地域のボランティアから教わる形に、『作って遊ぼう』は児童センターでみんなで製作する形に戻した。実際に参加者と対話をしながら製作することで小学生たちの創造力の豊かさに驚かされる場面もあった。

② 季節行事

『七夕会』、『ハロウィン会』では、事前に衣装を準備して仮装してきてくれた子や児童センターに余っている衣装を纏い、参加者全員がなにかしらの仮装をして参加してくれたことで雰囲気が出てより一層楽しめた。夏季の長期休暇には『夏休み工作』でスノードーム作りや休暇最終日には『水風船で遊ぼう』を実施。ビニールプールと水遊び用おもちゃも使用して、普段はできない外遊びを思いっきり楽しむこともできた。『クリスマス会』では、小学生になると中々取る機会が少ないであろう手形を取ったり、『お正月おたのしみ会』では中学生やボランティアと一緒にお正月にちなんだ遊びをみんなで楽しんだ。

③ 『南区自治協議会』と『南区地域総務課』との共催行事

『みんなで宿題！～ハッピー夏休み♪～』として、小学生の夏休みの学習をサポートする3日間連続での行事となった。チラシが白根小学校と小林小学校に全校配布され、幼児さんの頃は頻りに遊びに来ていた子がこの行事のために久しぶりに来館してくれることにも繋がった。夏休みの課題を持参し、ボランティアの見守る中、学習に取り組み課題が済んだ子は読書や折り紙などをして過ごした。白根高校生がボランティアとして入ってくれたり等世代交流にもなった様子。

④ 『白根地区社会福祉協議会』と『子育て安心ささえ隊 3739』との共催行事

2 団体と共催の行事で『お花を植えよう』を 2 回、『親子工作』、『けん玉教室』を 2 回、『人形劇』を実施。幼児親子、小学生を対象とし、特別感のある行事を楽しんでもらった。

⑤ 南区児童館 4 館合同ドッジボール大会

今年度初めての試みとして南区の白根北児童館、白根南児童館、味方児童館と合同で児童センターアリーナにて 4 館対抗ドッジボール大会を開催。低学年、高学年とそれぞれの部に分かれて総当たり戦で試合を実施。当日は応援の兄妹、保護者含め 119 名が参加。児童センターチームは低学年の部で 3 位、高学年の部で 2 位。負けた悔しさは相当心に残ったようで数か月経っても「次のドッジボール大会はいつ!? 今度は負けない!」等意気込む高学年が多く良い経験となった様子。

(2) 来期の課題

子ども一人ひとりの自主性・創造性、社会性、協調性を重視しながら、自分で自由に遊びを見つける手助けをしていくとともに、日々の子どもたちの様子を観察し、変化を見落とさないように、注意深く見守っていきたいと思う。また、日頃から保護者とのコミュニケーションをとることはもちろんのこと、地域の方々にも協力を仰ぎながら、多くの大人の目で子どもたちの成長を見守っていきたい。そして小学校やひまわりクラブとも情報交換をしながら、連携を密にしていきたいと思う。そして、南区の他 3 館の児童館と共に共催して行うドッジボール大会も継続して実施していきたい。

3. 中・高生事業

(1) 総括

中高生の中には、開館当時から長年児童センターを利用している子どもたちが多く、職員との信頼関係も強く、職員と会話を楽しむ様子も見られる。部活動や習い事との兼ね合いもあり、中々行事ごとに参加することは少ないが、中高生タイム（6時から7時）では、アリーナでスポーツを楽しんだり、定期テスト前には、職員に勉強を教えてもらうこともあった。アリーナが中高生でいっぱいになるくらい、スポーツをすることが楽しみで訪れる子どもたちが多いのも児童センターの特徴だと思う。

『アリーナで遊ぼう』や小学生向け行事にも参加し、小学生と一緒にゲームを楽しんでくれたり、小学生の手本となるよう、リーダーシップをとる場面も多くあった。

白根北児童館と連携して『中高生バスケ交流会』を初めて実施。中学 2.3 年生と高校 1 年生約 10 名が参加し、アリーナ全面でのバスケットボールやドッジボールをして交流した。

(2) 来期の課題

アリーナが閉鎖している期間、体を動かす機会が少なくなる。また、利用できる部屋が制限されることもあり、中高生の『居場所作り』が課題になってくる。学校での部活動も縮小されていくこともあるため、『居場所』としての役割を果たしていきたいと思う。

4. 地域との連携事業

- ①『白根地区社会福祉協議会』、『子育て安心ささえ隊 3739』との共催で今年度も多くの事業を実施。その中でも今年度初めての試みとして6月に「親子リトミック」、10月に「ベビーダンス」、1月3月に「けん玉教室」、2月に「親子工作」を実施。5月と11月にはプランターに花や球根を植える「お花を植えよう」、10月に「親子ヨガ」、3月に「人形劇」と計9回も行事を実施した。9回のうち5回は小学生も対象で、「お花を植えよう」、「けん玉教室」、人形劇団赤ずきんによる「人形劇」は小学生の反応もよかった。来年度以降も連携を強めていきたい。

凧組との連携

白根地域の伝統である大凧合戦の前日に開催される『こども凧合戦』が約4年ぶりに復活。白根児童センターも、本新蝶組の子ども会と、どこの組にも属していないが凧を揚げたいという小学生3名と一緒に凧を揚げた。こども凧合戦復活には最適な天候で白根児童センターの宝船の凧は計3回も揚げてもらうことができた。

③子育てオーエンジャー☆みなみとの連携

年に2回、ほっぺちゃん広場を実施。7月回では「ピアノ演奏とハンドトリートメント」を実施。約4年ぶりにオーエンジャースタッフによるハンドトリートメントが再開され、ピアノ演奏と共に過ごしてもらい、参加者はオーエンジャースタッフに話を聞いてもらいながら日々の子育ての疲れが癒されている様子だった。3月回には「鷺尾助産師さんによる講話」を実施。講話の後には参加者からの質問に答える時間があるなど毎年大盛況である。

④ひまわりクラブとの連携

白根ひまわりクラブ1、2の先生方と児童の情報共有や行事案内など定期的に合同会議を行った。「折り紙の日」や「お花を植えよう」、「けん玉教室」など多くの小学生行事に参加してくれている。

⑤大学との連携

- ・国際こども福祉カレッジより7月に2年生一人、新潟医療福祉大学より8月、3月に2年生が一人ずつ、敬和学園大学より9月に4年生一人が実習に来てくれた。行事の運営や利用者との関わりに重点をおき学びを深めてもらった。学生たちが企画した行事も実施し、遊戯室で身体を動かして遊ぶことができた。